

156 明治十六年事件口供書 (抄) (明治十六年十一月一日)

法学撰科、戸水寛人

卅日ノ審問ニハ醉中故諸事覚知セスト申立タレトモ今一日朝更ニ
悔悟シ自ラ暴行セサル旨ヲ哀訴シ訊問ノキニ事実ヲ述ヘサルノ
罪ヲ謝ス

〔朱書〕
人トナリ〔愚直〕他人ノ為メニ制セラレ初訊問ニ事実ヲ
吐露セス其後哀訴ノ赴ハ他ノ証言ニテモ実事ト推察す

(中略)

文学部学生 ○印ハ日暮ニ行キタルモノ共ナリ

(中略)

酩酊中ノコトニハ分明ナラザレトモ暴行ハセザリシト信ズ

(中略)

口供

金井 延

○金井 延

一 二十七日一寸臨場シ、ソレヨリ遠足セリ、遠足ノ風説ハ其
前日ニ聞キタリ、

一 日暮ニ到リシキハ既ニ飲食中ニテ帰リテ騒動スベシ杯ト云
フコト相談ハナカリキ、

一 五時過ニ帰校セリ、体操場ニ出デ、騒ギタルコトハ覚エアレ
ト、其他ハ明ニ覚エズ、但シ何ニカシタリシナラント思フノ
ミナリ、石ヲ投ゲ戸壁等ヲ破壊セシ覚エハナク、又左様ノコ
トハセザリシト信ズルナリ、

右之通相違無之候也

金井 延 ⑩

(表紙)

(欄外注記1)

口供書

菊池大麓 調
神田乃武

謹テ去ル十月廿七日夜学生々徒暴行ニ付拙者共取調ヘタル口供
書ヲ呈ス

取調ヘタル学生々徒ヲ類別スレハ左ノ如シ

〔朱書〕
法学部第四年生

三名

同第三年生

五名

同第二年生

十名

同第一年生

一名

予備門二級生 二名
 総計 二十一名

其行為ノ詳細ハ口供書ニ載タリト雖左ニ其大略ヲ開申ス

法学四年

一 江木衷 (朱書)

暴行ニ関ラズ

二 奥田義人

自カラ暴行ヲ為シタルヲナシト雖生徒一名拘留サレタリト聞キ他ニ迫ラレ或ハ巡查ト對弁シ或ハ寄宿課員ト論シ大勢ニテ自室傍ラノ戸ヲ破リ居タル際ヤレト呼ビ通リ過タルヲ有リ

三 北代勝

関ラズ

法学三年生

四 松岡幾之進 (朱書)

関ラズ

五 莊清二郎 (次)

大勢ニテ柵ヲ押シタル時側ニ在リテヤレト言タリ自カラ手ヲ下シタルヲ無シト申立タレモ語氣曖昧ナリ

六 坪埜平太郎

酒ニ酔ヒ善ク覚ヘサル由申立タレモ暴行ニハ全ク関ラサルカ如シ

七 太田保

酒ニ酔ヒ善ク覚ヘサル由申立タリ總テ語氣曖昧ニシテ暴行ニ関ラズト認定シ難シ

八 平部淳佐久

関ラズ

法学第二年生

九 植村俊平 (朱書)

語氣少シク曖昧ヲ存シタレモ暴行シタルヲ無シト思ハル

十 香阪政治

関ラズ

十一 岡埜敬次郎

関ラズ

十二 生沼永保

関ラズ

十三 乾孚志

関ラズ

十四 榊原幾久若

関ラズ

十五 伊東武次郎

関ラズ

十六 柿崎欽吾

賄ノ器物ヲ毀チ中校ニ賄ヘ来リ三号前ノ柵ヲ押シタリト申立タリ是ノミアリト認定ス

十七 羽生顯親

関ラズ

十八 小川廣太郎

関ラズ

法学第一年生

十九 棚橋愛七 (朱書)

賄ノ器物ヲ毀チ柵ヲ押シタルハ明白ニ申立タリ他ニ為シタルヲ無シト申立タレモ始終虚言多クシテ甚信シ難シ

予備門二級生

二十 中田錦吉 (朱書)

賄ノ器物ヲ毀チタルヲ明白ナリ其他竹棒ヲ以テ乱妨シタルニ相違ナシト雖大醉ニテ何ヲ為シタルヤハ判然セス

二十一 橋高脩吉

賄ノ器物ヲ毀チ柵ヲ破リ垣根ヲ押シタルヲ明白ナリ其外石ヲ投ケ他ノ乱妨ヲ為シタルヤモ計リ難シ

明治十六年十一月一日

菊池大麓 ④
 神田乃武 ④

加藤総理閣下

(欄外注記?)

法学部四年生 江木衷

廿七日朝十一時比

学生 (抹消) 中知己之者ヘ式場ヘ出る所 (抹消) 内諭可致旨幹事ヨリ談話有リ自分ハ西尾看病ニ罷出る然ニ他学生ニ話ス

可シ云々幹事并杉浦ヨリ委細明白ナル可シ (抹消)

(外出シ) 西尾の事ハ都合ニより延引と為リタレモ一時比遠足ニ出て三時独り自宅ヘ帰る部屋ニて眠リ居ル (看病勞れの為なり) 六時比起キタリ暗カリシ夜食了シテ奥田ニ面会 (之為め) (抹消)

西尾の件相談之為メ帰校ス室内暗黒ナリシ寄宿課ヘ出掛ケ巡查

二名課員二名居レリ乱妨の有リシ跡ナリシ課員ヨリ鎮メルヲ
托セラル、何如トモスルヲ能ハス門口〔方〕^(抹消)へ行ク〔朝〕課

員等并ニ門衛ヨリ明白ナル可シ暫ク待ツ奥田ヲ探シニ出掛ケ舍
ニ帰ル室内燈火有リ奥田ニ逢テ西尾ノ看病人ナキヲ聞キ七時半
比外出セリ十時比西尾方ニ至リ翌朝穂積君ヨリ〔早々〕^(抹消)書面早

々来る学生共式場へ出サル事ハ廿日比ヨリと思ふ自分ハ五六日
前ニ聞ケリ〔別ニ外出〕^(抹消)遠足の外別ニ企有るヲ聞カズ帰校後ワ

イノ、從ノ騒ハ有候ナラント思ヘリ理由ハ更ニ認メズ会費等ノ
事ハ更ニ知ラズ張出シニハ〇)有リ由テ日暮ナリト後ニ知レリ
遠足者の過半ハ其意味ヲ知ラサリシナリ

曾テ直接ニ遠足の事ヲ聞カス

久シク学生共ト交リ居レハ自分カ危カル可シト早く帰リタリ

江木 衷 (花押)

(欄外注記3)

法学第四年生 奥田義人

去ル廿七日卒業式日ノ騒擾事件ニ付左ニ申上候

一 廿七日午前第十一時頃外出友人西尾勝市病氣看護ノ為メ同
人宅へ罷越居リ午後四時頃用事有之婦校ス暫時舎中へ罷在候処
友人斯波淳六郎拙生ヲ訪ヒ共ニ外出センヲ勸ム依テ同人ト共
ニ外出シ諸方散步ノ余一杯ヲ傾ク不図途中穂積八束等ニ遇ヒ共
ニ帰校ス時ニ午後七時前後ト覺ユ同人等ト寄宿舎廊下中ニ入ラ
ントセシニ其近傍雜擾甚シク或ハ石ヲ投シ或ハ戸ヲ破リ或ハ板
壁ヲ倒ス等ノ様ニテヤアリツラン何分諸生酒狂ノ体ニテ聞クニ
由ナク况ンヤ暗黒ニシテ其ノ何事タルヤ知ルベカラザリシガ心

中例年ノ通り卒業式日ノ祝ノ為諸生ノ酒狂セシヲナラント覺ヘ
タリ然レ其勢タルヤ中々容易ナラズ恰モ仏蘭西革命ノ時ニ於
ケル如シ漸クニシテ室ニ歸リ友人ヲ尋ネ西尾勝市看護ノヲ依
頼セント欲シタルレ諸室悉ク暗黒更ニ誰レノ何処ニアルヤ知ル
ニ由ナン拙生ハ既ニ二日夜看護ノ為身体疲労頭痛甚シク迎モ当
夜ハ看病ニ赴クノ勢ナク頼リニ友人ヲ尋ネテ之レヲ依托セント
欲シ彼是奔走中本校生徒ノ内巡查ノ為ニ拘留セラレ容易ナラザ
ル勢ナリト告ゲ頼リニ生ニ巡查ト對弁セムヲ友人四五名ヨリ
迫リ来リタリ然レ其友人ハ誰レ人タルヲ知ラズ拙生ハ之レヨ
リ予備門生徒控所巡查扣所ニ至リ其ノ果シテ実事ナルヤ否ヲ正
ス巡查蓋シ誤聞ナラント答ヘタルヲ以テ生ハ全ク其誤聞ニ屬ス
ルモノタルヲ知リ之レヲ諸友ニ告グ然ルニ尚疑ヲ解カス於是不
得止寄宿課監事ニ面会シ其ノ実事タリシヤ否ヲ再ビ尋ネ監事ハ
何分混雜ノ際ニテ詳細ヲ答ヘザリシモ^(抹消)全ク其誤聞タリシ事ヲ
聞キ)之レ素ヨリ容易ノ事ニアラズ巡查ノ職權タル未タ本部綜
理ニ何等ノ適報モナク本部生徒ヲ拘留スルノ權ナキヲ論シタル
ニ監事ハ全ク其誤聞タリシヲ告ゲタルヲ以テ余ハ退キタリ其ノ
途中ヨリ文学学生ノ室へ至ラントセシニ風呂中ニ衣服ヲ着シナカ
ラ入浴シタルモノアリト聞キ直ニ往テ之レヲ見ル果シテ一騒擾
ヲ為シ居レリ余其誰タリシヲ知ラズト雖モ其ノ酒狂ニ出タルヲ
知り自カラ小使ト共ニ之レヲ六号辺ノ二階ヘカツギ拳ケ寝ニ就
カシム時ニ既ニ九時前ナリシト覺ユ然ルニ心中看病ノ掛念アル
ヲ以テ^(抹消)頻リニ友人ヲ尋ヌルモ暗黒更ニ弁セズ將サニ室
ニ帰ラントスルノ途中余ヲ呼ブモノアリ則チ友人江木衷ナリ其

ヨリ余ハ既ニ疲労ノ旨ヲ告ゲテ同人ニ看護ノ事ヲ托ス同人直ニ諾ス余ハ大ニ心ヲ安ンジ一五番室ニ入り燈ヲ点シ一二年生ノ諸友ト談話スル中『モリス』出スベシ出スベシト多人數入来ル直ニ燈ヲ消シ諸生ト室外ニ出ツ時ニ身体ノ疲労甚シ將サニ寝ニ就カント自室ノ前ニ来ル時恰モ室傍ノ襖戸ヲ打破ルノ時ナリ多人數ニシテ暗黒其勢破竹ノ如シ余モヤレーヤレート叫ンデ多人數ヲ勵シ開キ寢室ニ入ラントセシ途中亦午ニ掛リ二号三室ニテ談話シ寢床ニ就ケリ時刻果シテ何時頃ナリシヤ腦中疲労ノ折柄不覚漸ク寝ニ就キ一時間余ヲ過ギタリト覚ヘラシキ時鈴木記英来リテ余ヲ呼ブ余ハ病氣ナルヲ以テ面談ヲ謝セリ同人云ク大事件アルヲ以テ病氣ヲ推シテ面談スベシト依テ服ヲ着替ヘ一号一番

〔室〕(抹消)寢室ノ横ニテ同人ノ話ヲ聞クニ少々相談シタキコアルヲ以テ物理学教室ニ来ルベシトノコヲ部長ヨリノ伝言ナリト告グ依テ止ヲ得ズ衿ヲ着シ同室ヘ至ラントスルノ途中暗黒ノ中木ノ横タヘアルモノニ躓シ木倒レテ余之頭ニ当ル頭ノ痛キコ甚シ之レヨリ物理学教室ニ至リ三学部々長ノ相談ヲ聞キ後当夜ノ事件ニ付加藤総理ニ面謁ヲ乞ヒ当夜ノ事件ノ容易ナラズシテ総理閣下ニ〔対シ〕甚タ御配慮ヲ煩ハシタル旨ノ罪ヲ外二生ト共ニ謝シテ後亦穂積法学部長ニ面会シ加藤総理ヨリノ御言ヲ告ゲ直チニ婦室セシハ時既ニ一時頃ナリシヤニ覺ユ此ノ頃校中ノ騷擾既ニ治マリタルニヤ諸方静ナリシ而シテ二三諸生ト計リテ当夜ノ事件ニ付部長ヨリ相談事件ヲ談議シ明朝午前第七時ヲ以テ一室ニ一人宛一号一番室ニ来ルベキコヲ張出シタリ時既ニ二時ヲ過キタリト聞ク而シテ寝ニ就ケリ

右ハ去ル廿七日夜ノ事件ニ関シ拙生ノ身上ニ関シタル事実ノ大略ニ有之候或ハ時刻ノ相違等ハ有之候得共右ハ疲労中ニテ前後覺失シタルヲ以テ判然確言スルコヲ得ズ只事実ニ至リテハ相違ナキ旨ヲ確言ス其際ノ事件ハ一切之レヲ存セズ然レモ疲労中ナルヲ以テ若シ他ニ御証拠モ可有之儀ニ御座候得バ何等ノ御審問ヲ相受ケ候トモ不苦候也 以上

(中略)

(欄外注記4)

法学二年 植村俊平

廿七日朝外出シ十一時比婦校ス

十二時前外出シ塩谷外二三名と共に上野へ行キ侍合セ日暮へ往ク(ママ)

(欄外注記5)

遠足之事ハ一週間前ヨリ風聞ヲ聞キタリ確なことハ前夜聞ケリ何故ニ学生共式場へ出ズ遠足シタルハ知ラス自分ハ唯皆々左様ニ決したると聞自分も遠足ハ好故同意したり

日暮へ行クコハ出校前ニ知レリ多分皆知レリト信ス前夜比ヨリ

定リ居タルコト信ス会費ハ五号五番ノ一(抹消)〔学〕生徒ニ済ス〔廿七日ノ朝〕舎の者が皆留守(抹消)〔由〕故当人受取置由なり五号五番

室へ済ス可シト聞キテ参りタリ

日暮ニテ酒ヲ飲ミ四時半比婦校後の方の組なり理学部廣田等と同シ比ナリシ婦ルト直クフハヤ／＼と聞走りタレ氏已ニ静リタレハ食堂(食堂)へ往ク飯モ食ヘスゆる／＼し居タリシニ乱妨ヲ働ク者有り器物等ヲ破損シタリ之ヲ避テ出テスシテ持部屋ニ帰り夫ヨリ三号の辺へ参り理学士中野ニ逢田島か酒ニ酔これハ南校内

ニ倒れ居たる同人ヲ中野と共に同人部屋まで連れ帰りたり此際
教員数名東口へ立居たり

夫ヨリ〔有〕^(抹消)暫クシテ有賀ニ逢ふ此時或る〔人学〕^(抹消)生徒促へラ

レタリト聞ク有賀ハ寄宿の掛の者ニ尋人と云ふ自分ハ之ヲ止ム

寄宿へ行クハ無益ナレハトテナリ然し有賀ハ酔て無理ニ出掛た

り山田直矢石川直記有賀と共に往ク自分も往ク塚本と有賀と種

々相論ス自分ハ有賀ヲ止メ無理ニ引取ラセタリブヨリ別レタリ

自録ハ広田等ト〔約〕^(抹消)外出ヲ約シタレハ共ニ外出ス未タ明るし

暗くなりて帰校、其時分酔て困けれハ運〔動〕^(抹消)にて酔ヲ冷ス此

時寄宿にてハ□途程騒かしき音聞ゆ此間三十分以上なり

未騒ミしけれハ帰らず物理学試験場〔中火〕^(抹消)燈火有り由て入り

て見ルニ〔部長相談可申なり〕^(抹消)

教員大勢居たり夫ヨリ舎へ帰る一号辺人大勢集り居れハ遠廻し

て取締の所ヲ通り見るニ此所ハ全ク損破シ燈火ナシ東側ヨリ入

らんとする二階ニ集り居れり故ニ西向からすつとして入らず余

義なく病室ニ入りて高橋〔山〕^(抹消)山田文太郎談話ス余程長シ夫ヨ

リ出て形情ヲ見タリ余程静ナレモ三号前垣の辺ニ大勢居れり由

りて成丈ケ人ヲ避テ通り抜ケ運動場ヲ廻リ再病院ニ入る余程長

ク話ス矢張先の人なり十一時比静ナレハ五六人と共燈火の有之

処へ往キテハ談話ス〔物〕^(抹消)其時物理学にて何か話有りと聞き外

から見る更ニ何事もなし由りて帰て就寝

騒ニハ少シモ関係ナシト信ス然し大醉中故確トハ知レス自分ハ

無シト信ス〔トモ或ハ何か為シタル事有るも今ハ覚エズ〕^(抹消)

(欄外注記6)

法学第二年 岡整敬次郎

廿七日遠足会へ行ク廿六日夜其事ヲ聞ク自分「ノート」ヲ書居

タル時予備ノ人カ思フ者三四名来リ会へ往クカト聞ク自分ハ式

場へ出ル積ニテ断ル小川モ断ル〔余ハ往ク様子ナリシ〕^(抹消)翌朝小

川ノ外同室ノ者モ皆往ク積リナリト聞自分モ往ク事ニ決ス会費

五銭ハ羽生立替ル何処へ持往キシハ判然知ラス

十二時比外出上野へ往ク日暮へ往クコハ其少シ前ニ聞ケリ

日暮ヨリ四時半カ五時〔半〕^(抹消)比婦校人ヨリ後レタ〔ルヲ〕^(抹消)賄ニ

往キタル茶碗等器物ナシ賄飯ナシト断ル婦路羽生ト同伴賄ニハ

騒有リシ後ナリ羽生ト共ニ外出スタ飯シテ燈火付タル後婦校校

内余程騒々シク寄宿課へ石ヲ投込時分ナリシ室内ニテ〔様子〕^(抹消)

音ヲ聞斯ク思フナリ

又直ニ羽生ト外出ス〔校内危シト信スレハナリ暗黒ニテ石ヲ投

ケ棒ヲ振廻ス故危シト思フ

途中生沼ニ逢フ散歩シテ八時過帰校

二階ニ往キ寝ントスルモ柿崎二階ニテ吐キ居レリ介抱シテ後寝

タリ

騒キニハ少シモ関係ナシ、一同ヲ止メサリシハ無念ト信ス

遠足ノコハ風聞ハ廿五日此ニ聞ケリ

八時比帰校ノ時ハ別ニ〔非〕^(抹消)ヒトキ騒キナシ

其前ニ垣根ヲ押シ居ルコヲ聞ケリ然シ室内ニ居レリ

岡野敬次郎

植邨俊平

(中略)

(欄外注記8)

戸水寛人×

(欄外注記9)

午食後唯一人上埜公園ニ到リ其ヨリ日暮シニ行キタリ上埜ニ到
リシハ風税ニヨリ待合センガ為メナリ遠足ノ話シハ四五日前ヨ
リアリタレト日暮ニ到ルトノ事ハ前夜始メテ聞ケリ」(外出セ
シハ唯一人ナリ)「賄之不平ハ舎中一同ノ中ニ了リタリ柵塀ノ不
平ハ其建築ノ時ニ」(アリタリ然レ近日ハ其不平大ニ衰ヘタリ)
之ヲ聞ケリ」五銭ノ出費ハ之ヲ五号ノ五番室ニ出シタリ但シ之

ヲ受取リシ人ノ姓名ハ承知セズ会費ヲ出セト云フコトハ当日午前
八時(比)「過ニ承知セリ」旗ハ紙製ニシテ気蓋世云々書シアリ

(欄外注記10)

タリ日暮ニテ人数ヲ調べシトハ二百三名アリタリ別ニ号令セシ
人ハナシ同所ニテ賄ヲ苦シメルベシ云々ノ話シハアリタリ是レ
ハ平日ヨリアル話シタリ帰路ハ大勢ニテ上野ヲ通過シタリ其際
醜体等アリシコトハ余之ヲ見ズ帰校センハ四時半頃ナリ余ハ一人
ニテ編輯室ノ辺ヲ通過シ廊下ヲ通ラズ帰舎シタリ其後食堂ニ到
リタリ「此時酒気大ニ発シ大酩酊ニテ其後ノ事ヲ弁知セズ」
食堂ニ到リシトハ騒擾ノ様子アリタリ棒ヲ携ヘ飯台ヲ打チシ
タル覚ハナシ是レヨリ以後ハ大酩酊ニテ前後ヲ知ラズ」

十月卅日

右之通相違無御座候也

戸水寛人

戸水寛人

私儀十月卅日ニ於テ去ル廿七日ノ暴挙ニ関シ篤ト御審問相受申
候処乍恐結尾ニ於テ大ニ詐譎申上ケ唯今ニ至テハ深く慚愧悔懺
仕リ候天椎心空シク鴻嘆仕リ居候得共流水終ニ帰ヘラス今更致
方無御座候何卒先日ノ悪業ヒトヘニ御免被下様伏テ奉鳴謝候勿
論以後謹譲ノ事ハ固ク良心ニ誓申候因テ悉ク肝肺ヲ吐露シ実情
少シモ包ミ不申候緒結尾に於テ詐譎申上候トハ外儀ニ無御座婦
校直ニ食堂ニ至リシ後大ニ酒気ヲ発シテ前後忘却ノ一事ニ御座
候實際私儀ハ酒コソ少シハ飲居候得共前後忘却ノ事ハ決シテ無
御座反テ前後明瞭ニ覚候事毫モ平日ニ違ヒ不申殆ント醉不申位
ニ御座候故ニ目ニハ棍棒ヲ以テ飯台ヲ打ツノ人ヲ見耳ニハ茶碗
皿膳ノ破声ヲ聞申候得共私自ラハ決シテ左様ナ事ヲ到不申而已
ナラズ搔擾ノ際食ノ静カニ咽ニ下ラザランコトヲ恐レ忽チ之ヲ避
ケ「スシ」ヲ携ヘ病室ニ行キ此処ニテ食居候此時奥ニ居リ候者
ハ高橋捨六、太田保、田上省三ノ三人ニテ小使辰太郎モ何用事
ニテカ一寸来申候食後ハ暫時病室ニ於テ談話仕候テ夫レヨリ帰
舎仕候処誰一人モ居リ不申候ニ付直ニ体操場ニ之キ申候テ十分
計此処ニ止マリ候ノ際加藤某(文学四)ノ醉テ熟眠仕候ヲ目撃致
候某ヨリ暫時茶飲処ニ行キ茶ヲ喫候テ再ヒ帰舎致候ヘハ稍黄暗
ニ属シ候故ニ自分火ヲ点シ候後ヨリ聞申候ヘハ法学士砂川峻俊
雄ハ夕景私ノ舎ニ来候由ナレバ必ス私ノ体操場及ヒ茶飲所ニ在
リシ時ノ事ト推測仕候火ヲ点スルヤ否ヤ平部淳左久モ亦帰舎致
シ候蓋シ私同舎ノ人ハ右同人及ヒ坪野平太郎、荏清次郎、太田
保太郎、田上省三、斎藤徳五郎ノ六人ニ御座候舎ニ在リテ平部

ト談話ノ時逐々ニ来リシモノモ漸々加ハリ申候少時アリテ宿宿
 課ヲ襲フモノ喊声ヲ発シ或ハ火事ト呼候ニ由リ何事ナラント舍
 外ニ出テ直ニ其処ニ走リ候処火事トハ「ラムプ」ニ石中リ火体
 ノ上ニ落候事聞候、併シ私自ラハ決シテ石ヲ投不申又棍棒ヲ以
 テ窓ヲ打ツ如キ事ハ決シテ致不申候通「ラムプ」落候得共火事
 ニハ成不申ニ付直ニ帰舎致候ヘハ舎内ノ「ラムプ」ハ消居候是
 ハ齊藤消候様ニ言居候私儀ハ早速火ヲ点シ搔擾ノ際トハ言ナガ
 ラ「テリー」先生ノ講述筆記ヲ写居候是レハ先日來写方少シク
 滯候所以ニ御座候少事アリテ茶飲所ニ之キ写字ノ為メ「カス
 ミ」タル目ヲ洗ヒ候後帰舎候処平部等モ居候ニ付談話致居候而
 シ傍ラ又前ノ写字ヲ讀申候共ニ談話候モノハ右平部、莊、坪野
 齊藤其外数人居候得共逐一覚不申候況シテ陳新代謝シ去リテ又
 来り候モノモ居リ候故猶更姓名逐一覚不申候其際ニ奥田義人來
 リテ齊藤ヲ呼ヒ与ニ共ニ去レリ少時アリテ早川千吉郎來リ文学
 部ノ学生三部長ノ召ニ応スルモノアルヲ語レリ蓋シ彼ノ奥田、
 齊藤、モ同シク召ニ応シタル者ニ御座候早川來リシニ付前ノ写
 字ヲ已メ候得共去ルヤ否ヤ又写字ヲ続ケ候是ヨリ或ハ写字シ或
 ハ談話候処奥田齊藤ハ久シク帰不申ニ付坪野、莊、等ハ右二人
 ノ之ク所ニ之カン〔トテ〕ヲ主張候得共私儀ハ之ヲ止メ候此時
 稍寒氣ヲ覺ヘ寢室ニ之キ眼ラント欲シ先ツ便所ニ之ク帰途坪野
 等ノ総理室ニ之クニ逢申候帰舎仕候ヘバ莊一人居候テ是モ間モ
 無ク舎ヲ出テ申候私ハ直ニ寢ニ就キ申候後チ舎内搔シキカ為メ
 目ヲ覺マシ候処莊初メ齊藤モ帰舎致候テ総理室ニ之キタルノ模
 様ヲ聞カシ呉候之ヨリ直ニ限り申候

右決シテ相違無御座候也

明治十六年十一月一日

(後略)

戸水寛人

〔欄外注記1〕

〔朱書〕

〔欄外注記2〕

〔一〕

〔欄外注記3〕

〔二〕

〔欄外注記4〕

〔九〕

〔欄外注記5〕

〔一号三番〕

〔欄外注記6〕

〔十一〕

〔欄外注記7〕

〔一号四番〕

〔欄外注記8〕

〔木下広次〕

〔欄外注記9〕

〔十一〕

〔欄外注記10〕

〔十一〕

〔明治十六年十月二十七日事件書類〕、④M24〕